

学校教育目標

山東を愛し 共に自己を磨き合い 心清く
未来を担う 自立した生徒の育成

総合的な学校関係者評価

生徒たちが全体的に落ち着いた雰囲気です学校生活を送っている、適切な学校運営が行われていると感じる。小学校、地域を巻き込んだあいさつ運動は大きな成果をあげることができた。ICTの効果的活用を研修を通して、生徒の学力の向上につなげてほしい。

※文書表現で記入してください。

自己評価 達成状況 (A: 達成している B: 概ね達成している C: あまり達成していない D: 達成していない)

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)	
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	B	・学校たよりや学年・学級通信、各種案内などを通して、学校での生徒の様子等の情報発信に心がけている。ホームページの更新が定期的には実施できなかった。工夫して積極的に情報発信を行い、学校での生徒の様子を保護者や地域の方々に理解していただけるよう取り組んでいく。 ・学校運営協議会委員の協力を得て、講師の選定など豊かな体験活動を実施することができた。	<学校運営について> ・学校開放、地域との連携を進め、地域とともにある学校づくりに取り組んでほしい。 ・学校行事等の見直しを図られていると思うが、行事の重要性を含め、職員で十分に検討して見直しをすすめていただきたい。 ・先生方の負担も大きい、健康に留意して明るく教育活動をすすめていただきたい。教師が元気なのが一番である。 ・引き続き学校運営協議会としても具体的に協力できることを考えていきたい。 <生徒指導について> ・生徒が落ち着いているのは、全職員で共通理解を行い指導ができていからである。 ・厳しく指導することが難しい時代であるが、悪いことは悪いと正す指導はしっかりやっていただきたい。 ・全校をあげてあいさつ運動を展開しているが、地域でもあいさつを奨励していきたい。地域でも大きな声であいさつができる生徒が増えている。 ・不登校生徒に対する支援のあり方は、それぞれの生徒の抱える問題が違つて対応が難しいと思うが、担任の先生だけに任せるのではなく、地域と連携をとりながら組織的な支援をすすめていただきたい。 ・SNSの危険性について保護者と共に協力しながら今後も指導を継続してほしい。
		学校運営協議会活動の充実	B		
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B	・「共創」の取組は、本校の基本方針であり、新学習指導要領の基本指針とも合致しており、今後とも職員同士の意識を高め合い創意工夫して、生徒主体の教育活動を進めていくことができるよう取り組んでいく。 ・生徒の内面理解については、教育相談を計画的に実施できた。	
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	B	・いじめアンケートを定期的に実施し、生徒の変化をできるだけ早く発見し、対応できるようにSCやSSWと連携しながら生徒指導を行った。 ・不登校・生徒指導部会を定期的に実施し、報・連・相の徹底を図り、組織全体で迅速で機動的に対応できる体制づくりを進めていった。	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A		
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	C	・震災・学校支援チーム(EARTH)と連携し実践的な避難訓練を実施できた。また阪神淡路大震災や東日本大震災が起きた日には追悼行事を行うなど防災教育や人権教育を進めることができた。 ・南但馬警察署に協力のもと、実践的な防犯訓練が実施できた。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	A	・マニュアルの確認を行ったが、課題を残したまま見直しまで至らなかった。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	B	・教育支援委員会やケース会議、を定期的に行うことができた。そのため、個に応じた指導について、全教職員が共通理解を持って取り組むことができた。 ・個別の教育支援計画や個別の指導計画を効果的な活用を進めていきたい。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	B	・市の対処方針に基づき、安心・安全を最優先とした教育活動を推進できた。	
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A	・本年度すべてにおいて見直しを図り、地域愛を育てる体験活動を創意工夫し実施できた。	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	A	・大型提示装置が普通教室や特別教室など、全教室に配置された。そのため、各教員がICTを活用するなど授業のUD化に積極的に取り組めた。	
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B	・今年度も家庭学習の充実を重点を置き、デジタルドックスDAYをすすめ、チャレンジ学習のほか、ステップアップ学習など個に応じた家庭学習のあり方をすすめていった。次年度も継続して進めていきたい。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B	・主に道徳教育の研究で問い返しについて研究を進め、生徒の思考力を高めることができた。道徳の評価についていっそう工夫改善を図っていきたい。	
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B	・総合的な学習の時間や各教科で、効果的な情報活用能力の向上を推進していく。	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	A	・SNS関係のトラブルなどが数件あったが、本人や保護者の相談、アンケート等により、早期に発見し対応することができた。今後も、人権教育の観点から保護者と協力しながら指導を継続していくことが必要である。またPTAと連携して、講演会等を企画していきたい。	
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	・事前指導や事後指導など工夫をし、生徒にとって有意義な活動になるように行った。	
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	B	・食育の推進については、献立等を活用して、地産地消やバランスのとれた食事について理解を深めた。	
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B	・キャリア教育については、各学年で講師を招へいし実施することができた。	
その他	・協働体制の構築 ・勤務時間の適正化	B	・ノ一部活デーやノー会議デーが定着し、職員の意識も向上する中で勤務時間の適正化が進んだと考える。音声ガイダンスによる電話対応の導入や行事の精選など今後も業務改善を進めていく。		